



フードバンクかしわざき 事務局

## 小池 奈保子

KOIKE NAOKO

1959年 上越市出身  
2018年「フードバンクにいがた」ボランティア  
2020年「フードバンクかしわざき」発足

「フードバンク」とは、企業や家庭において、安全に食べられるのにさまざまな理由で流通に出すことができない食品を寄付してもらい、必要としている人たちに無償で提供する活動のこと。

柏崎市内にもフードバンク活動を行っている団体がある。2年前に任意のボランティア団体として発足した「フードバンクかしわざき」は、昨年4月、えんま通りのテナントに倉庫兼交流拠点となるスペースを設けたことで、より利用しやすくなった。そう話すのは事務局として活動する、小池奈保子さん。養護教諭として長く市内外の小中学校に務めていた経験もあり、奈保子さんを知っているという方も多いだろう。

この「フードバンクかしわざき」を立ち上げたのは奈保子さんの夫であり、市内を拠点に「介護タクシー&御用聞き」という事業を展開する「柏崎ポーターズ」の小池勝己さん。奈保子さんは、夫が始めた事業を共に支える最大の理解者。現在はフードバンクかしわざきの事務局として、ボランティアの人たちと一緒に汗を流している。

フードバンクには食品の廃棄（フード

ロス）を減らすという目的もある。東本町の倉庫兼交流拠点には、企業や商店などから定期的に提供される食品や野菜、調味料、日用品などさまざまなものが保管されている。活動はすべてボランティアで行い、食品の引き取り、倉庫への運搬、保管、仕分け、提供先への引き渡しなど、ボランティア登録している人たちへ一斉に連絡が行き、仕事の合間や空いた時間を見つけ、それぞれが作業を行っている。

お米や食品の持ち込みは個人でも可能。食品であれば未開封で賞味期限まで2カ月以上あり、常温保存可能なものという条件がある。野菜や冷凍食品は相談してほしいと奈保子さん。市内には他にも「ワークプラザ柏崎」、市内北半田「カフェ・エトセトラ」、市内劔「美容室・キリワッチヘアワークス」など、食品の寄付を受け付けるフードドライブ拠点もあり、気軽に利用してほしいと話す。

フードバンクから食品が提供される先は、児童福祉施設、障がい者支援施設、子ども食堂、社会福祉協議会、地域包括支援センター、生活保護・ひとり親世帯、一時的な生活困窮者の方など。市役所等から連絡を受け、直接倉庫に食品を受け取りに来る人も多い。食料品だけでなく生理用品があることに安堵する女性たちも多く、奈保子さんは優しく声を掛けてコミュニケーションを取りながら、訪れる人を温かく迎え入れている。



### お問い合わせ

任意ボランティア団体「フードバンクかしわざき」

☎090-3808-0069 (代表 小池勝己)

\*「フードバンク倉庫兼交流拠点」柏崎市東本町2-7-39  
(普段は施設されていますが、ご連絡によりボランティアが対応します)